

2015年6月

クリーニング資材の「！」なトピックス



クリーニング資材通信



3時間目

店舗の必需品！「ホッチキス」のお話



クリーニングのタグ留め等で毎日使う「ホッチキス」を掘り下げます！



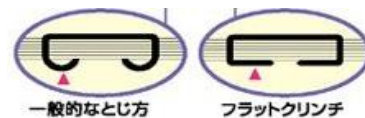
ホッチキスの歴史と由来

普段何気なく使っているホッチキスですが、そのルーツはどこにあるのでしょうか？発明者として考えられている人物の1人が、機関銃の発明者でもある「ベンジャミン・B・ホッチキス」です。機関銃とホッチキスはあまりにも隔たりがあるように感じますが、マシンガンの弾送りをヒントにホッチキスの機構を考え出したと言われています。日本で「ホッチキス」という呼び方は広く浸透していますが、新聞用字用語集では「ホチキス」、JIS規格では「ステープラ」と、それぞれ異なる名称で定められており、実は表記についての正式な決まりはないのです。アジア圏ではハンディタイプのホッチキスが多く使われていますが、クリーニング店でタグ留めに使うプライヤータイプは、イタリアを中心とするヨーロッパで今でも主流のホッチキスなのです。



タグ留めに「HP-50」 & 「2115針」がお勧めの理由

クリーニング店舗でのタグ留めに毎日使うホッチキス。皆さんは何を使っていますか？ライトでは「HP-50本体」と「2115 1/4L針」の組み合わせを推奨しています。一般的な「No.10針」と比べて「2115針」はサイズが大きく針足も長いので、しっかりと留まります。そして最大の特徴は留めたときに針先がタグに食い込むこと。タグ止めしたたくさんの衣類を一緒に洗う時、ホッチキスの針先が少しでも出ていると、その部分に接触した衣類の糸引きが起きてしまうリスクが非常に高くなります。また、本体がもし壊れてしまっても全てのパーツが別売されており、修理対応も可能です。しっかり留まる信頼の針と、長くご愛用いただける本体の頑丈さをお勧めしています。逆に、最近市場に広く出回っている「フラットタイプ」のホッチキスはタグ留めには絶対に使用しないでください。上図のように針先がまったくタグに食い込まないため、糸引きやほつれ等、事故の大きな原因となります。お使いのホッチキスを今一度ご確認ください。



ホッチキスの雄！MAX製品のこだわり



錆に強く品質の安定した、No.1ホッチキスメーカーのマックス(株)。HP-50などのプライヤーは今でも1台1台職人さんによる手組みで生産されています。針も新日鉄の鉄線だけを厳選して使用し、他メーカーが生産拠点を海外へ移す中、群馬県の自社工場で国産と品質にこだわった製品を作り続けています。

★ 次号もお楽しみに！

株式会社 ライト